



国民の森林・国有林

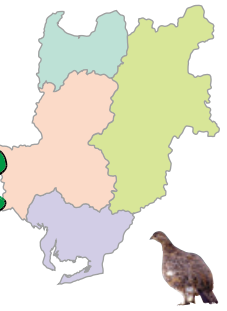
林野庁
中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5
☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



天皇皇后両陛下ご臨席のもと 第六十七回全国植樹祭ながの2016開催

主な項目	○ 第六十七回全国植樹祭ながの2016	P2
	○ 各地からのたより	P3
	○ シリーズ「森林官からの便り」	P9
	○ シリーズ「ご当地自慢」	P10

第六十七回全国植樹祭 ながの二〇一六開催



「技術普及課」六月五日(日)、長野市のエムウエーブを主会場として、天皇皇后両陛下のご臨席のもと、「第六十七回全国植樹祭ながの二〇一六」が開催されました。

長野県での全国植樹祭の開催は、昭和三十九年に茅野市で第十五回が開催されて以来五十二年ぶり二回目となりました。式典会場であるエムウエーブでは約五、七〇〇人が参加しました。

プロローグでは、大会テーマである「ひとゆめみどり 信濃から未来へつなぐ森づくり」のもと、「木と森の文化」に関わりのある県内各地の郷土芸能として、諏訪大社御柱祭の「木遣り」、飯田お練りまつりの「東野大獅子」、御代田の「龍の舞」が披露されました。

式典では、天皇皇后両陛下によって、ヒノキやタカトオコヒガンザクラなど長



御代田の「龍の舞」



天皇陛下の「お手植え」の様子

野県の代表的な樹種や関わりの深い樹種六種の「お手植え」と四種の「お手播き」が行われました。このうち、天皇陛下が「お手播き」されたカラマツの種子は、五十二年前に茅野市で開催された第十五回全国植樹祭において昭和天皇が「お手播き」され生長したカラマツから採取されたもので、まさに森林の未来への継承を象徴するものとなりました。

エピソードでは、美しいふるさとが将来へ受け継がれていくことを願い、式典同日に県内四地区に設けられた県民植樹会場と中継で映像を結び、参加者全員で、長野県出身の高野辰之氏が作詞した唱歌「故郷」を大合唱し各会場が一つになりました。

このほか、志賀高原において植樹プロジェクトを主催する歌舞伎俳優の市川海老蔵さんによる歌舞伎の披露や、長野県出身の宇宙飛行士である油井亀美さんも登場し、式典参加者一丸となって長野県の森林資源を未来へ引き継いでいくと

いう意志を全国に発信しました。

また、式典会場に隣接して設けられた「おもてなし広場」では、信州の魅力を発信する様々なブースが配置され、中部森林管理局は、森林・林業に関する取組の情報発信を行うエリアにブースを出展しました。

ブースでは、中部森林管理局の取組やニホンジカ対策に関するパネルのほか、林野庁情報誌「林野—RINYA—」で連載中の「お山ん画」をパネル化して展示しました。迫力のあるニホンジカのイラストの前で多くの方が足を止められ、大人から子どもまで幅広い年代の方々に林野庁や局の取組に興味をもっていただくことができました。またブースでは、除伐材の輪切りに参加者がイラスト等を描いて完成させる木製バッジ作りも実施しました。

木目を観察しそれを生かしてイラストを描くお子さんや、木の温もりあふれる名札を作成される方、長野県PRキャラ



歌舞伎の披露



大会シンボル「木の地球儀」を長野県知事より富山県知事へ



賑わう中部森林管理局ブース

クター「アルクマ」を描く方など、ブース開始早々から、大勢の方が立ち寄り木工クラフトを楽しんでいただくことができました。
来年度の第六十八回全国植樹祭は引き続き当局管内の富山県魚津市桃山運動公園で開催されます。

第六十八回 愛知県植樹祭



「名古屋事務所」「届けよう 未来の人へ 豊かな自然」をテーマに、愛知県植樹祭が五月十四日（土）、市制十周年を迎えた北名古屋市内において、昨年開校した日進市立竹の山小学校・日進北中学校を会場にして盛大に開催されました。

式典では大村愛知県知事から、「植樹祭は県内の市町村を会場持ち回りで開催している。二〇一九年には愛知県では四〇年ぶりとなる全国植樹祭を尾張旭市で開催する。愛知のものづくりと伝統文化を発信し併せて更に緑の輪が広がることを期待します」とあいさつ。長瀬北名



植樹祭式典の様子

古屋市長は「名古屋大都市圏の発展とともに人口が急増し市制十周年を迎えたが、なお日々人口が増加しており今後も植樹される幼い木々とともに大きく成長していきたい」また、横井緑化推進委員会会長からは、「愛知県は緑の募金額全国一位となった。県民皆様のご協力に感謝するとともに各種緑化事業を積極的に推進したい」と述べられました。

緑化コンクール入賞校や緑化功労者等々の表彰式の後、みどりの少年団と、愛知県「緑の大使」のマリクリスティーナさんが「緑を守り育て、引き継いでくれる人を育てながら、緑とともに活動の輪を更に大きく発展させ、将来に引き継いでいきます」と緑の誓いを宣言しました。

式典セレモニー終了後は、式典会場に隣接する「市文化の森物語の広場」においてマテバシイやシラカシなど二品種、十一本の広葉樹を記念植樹しました。



シラカシなどを記念植樹

各地からのたより

第六十八回全国植樹祭プレ大会 第十七回とやま森の祭典を開催

「富山署」天候に恵まれた五月二十二日（日）、魚津市の「魚津桃山運動公園」において、富山県、魚津市、とやま緑化推進機構などの主催による「第六十八回全国植樹祭プレ大会（第十七回とやま森の祭典）」が招待者及び一般参加者を含め、約三千名が集まり盛大に開催されました。



新島局長と記念写真

今回の植樹祭は、来年、富山県で開催

される第六十八回全国植樹祭のプレイベントとして「たぐさんの緑かがやき澄んだ水」を大会テーマに実施され、中部森林管理局からは新島局長、中島富山森林管理署長など十名が参加しました。

会場は、僧ヶ岳、富山湾を望むことができる場所で行われ、オープニングアトラクションとして、魚津高等学校吹奏楽部の演奏が始まり、式典、富山発の優良無花粉スギ「立山森の輝き」などの記念



森林クラフト教室の様相

植樹と森林整備を行い、午後からは蜃気楼太鼓、よっしゃこいダンスチーム等のアトラクションが華やかに行われました。

式典では、主催者等の挨拶後、富山県内の地域林業の振興に貢献された方や林業に従事する若き担い手としての模範となる方の知事表彰や魚津市長感謝状などの表彰式を行い、その後、来年度開催される全国植樹祭へのメッセージやPRが行われ、最後に「ふるさとの空」を参加者全員で合唱しました。

会場内では、森づくり等の展示や市町村特産品コーナー等、三十七の展示ブースが立ち並び、富山森林管理署の展示ブースでは、山の日の制定、中部局・治山事業の取組などをパネルで紹介しました。

また、森林クラフト教室を開催したところ、小さな子供からお年寄りまで多くの方々に楽しんでいただき、盛況に終ることができました。



開会式で挨拶する高塚署長

「東濃署」木のゴールデンウィークと銘打って、五月三日（火）～五日（木）の三日間、「つけち森林の市」が道の駅「花街道付知イベント広場」（岐阜県中津川市付知町）で開催されました。

この催しは、「資源としての木」に感謝しながら、地場産業である木工業や建築業を広くPRし、地域振興に役立てようと続けられてきたもので、署としても旧付知営林署時代から協力してきているものです。

好天で大盛況！

「つけち森林の市」開催

また、山の日制定のPR用の「ハッピー」を、局長をはじめ職員も着用したところ、「周囲から良く目立ち、いいですね」とのお声掛けもあり、PR効果の大ききさにも驚かされた植樹祭となりました。



来場者で賑わう会場

第二十六回目となる今年も、地元木工関連業者等による木工品や素材の展示販売、チェンソーアートやロクロの実演、苗木の無料配布や薪割り体験、飲食など様々な内容のテントが並び、広い場所では普段見ることができない林業用重機（グラップル）の実演や、木造家屋建前実演及び入札販売、さらに昨年の全国育樹祭「一〇〇年の森づくりリレー」で使用された「木曳車」が中津川市に寄贈されたことから、そのお披露目も行われました。

また、今年で六回目となる森林の市コンテンツは、昨年同様「木の器」をテーマとして行われ、デザイン豊かな応募作品が多数展示され、来場者は審査員として気に入った作品に投票していました。

イベント広場のステージでは、地元恒例の「木遣り音頭」や「おんぼい節」の披露、「付知峡太鼓」や「バンド」の演奏、「フラメンコ」や「キッズダンス」等が行われ、会場を盛り上げました。

当署も二日間ブースを設け、ヒノキ間伐材の丸太切り体験と鉛筆立て作成、緑の募金呼び掛け、パネル展示による木曾五木・木曾ヒノキ備林・治山工事の紹介等を行うとともに、のぼりとチラシ配布により「木の日」のPRを行いました。

メインの丸太切りは、職員指導のもとヒノキ丸太を約六センチの長さに切る体験で、切った丸太は職員が穴を開けて鉛筆立てとし、参加者はそれに絵付けしてお土産として持ち帰りました。



ノコは引くときに切れるんだ

一日目（三日）は好天で過ごしやすき日となったことから、来場者も多く一三三名の体験申込みがあり、二日目（四日）は雨上がりで少し蒸し暑くはなりましたが、一〇九名の申込みがありました。両日とも多数の親子連れが訪れ、普段行う機会のない丸太切り体験に「小さな子供に、貴重な体験をさせることができ良かった」と喜ばれました。

一般の方に森林管理署を理解していた

平成二十八年度

国民の森林づくり推進功労者に

対する林野長官感謝状の贈呈

「愛知森林管理事務所」五月十八日愛知森林管理事務所所長室において、国民の森林づくり推進功労者に対する長官感謝状の贈呈式が行われました。

今年度は、国有林・民有林との協定締結による森林整備等の活動に平成十二年から継続して「緑を守り、育てる」をモットーに愛知・岐阜・富山・長野県の国有林・民有林で林業体験活動を通して豊かな森林づくりを進めてきた名古屋シティ・フォレストクラブに感謝状を贈呈することとなりました。



感謝状贈呈式 丸山所長（左）

同倶楽部の国有林での活動は瀬戸国有林「定光寺NFCの森」及び段戸国有



贈呈式後のNCF Cの代表者の皆さん

林「名古屋シテイ・フォレストクラブの森」の二件の協定に基づき倶楽部会員ばかりでなく市民や企業等の参加を呼びかけ豊かな森林づくり体験を行っており、森林環境の保全が課題となっている中で、森林の重要性・必要性を認識する機会を積極的に設けるなど国有林、民有林を問わず森林づくり推進に大きく貢献しています。

付知町内の小学生に 森林教室を実施しました

〔東濃署〕中津川市付知町内の二つの小学校より、総合学習の一環として森林教室の実施依頼があり、付知南小学校は五月二十三日に、付知北小学校は五月二十五日に、それぞれ五年生を対象として、加子母裏木曾国有林内の付知峡自然

休養林にて実施しました。

当日は、同休養林内にある旧渡合野営場の広場で、当署職員から、岐阜県や中津川市の森林の現況を始め、森林のはたらきについてパネルや土壌模型を使っての学習を行いました。

その後、各班に分かれ、古くは加子母から王滝に通じる重要な道であった木曾越え古道を当署職員が講師となり、自然観察を行いながら約一時間半散策しました。土砂崩れを防ぐ木の根の様子や、森林鉄道跡の石積み、木曾越え古道沿いに安置されている三十三観音の石仏等を見て歩き、ミズメの匂いを嗅いだり、ヒノキとサワラの見分け方などを講師の指導により学びました。

昼食後は、植物の種が飛ぶ様子が分かる種の模型「ロケットラワン」を児童が作製し、クルクル回りながらうまく飛ぶ様子を見て、植物の不思議を体験しました。



森林のはたらきを学習して質問中



ロケットラワンの実演

両校の児童とも、歩道沿いの大木に触れたり、土壌の柔らかさや沢水の冷たさに歓声を上げたりしながら、直に自然を感じ、楽しく学習できたものと思います。

また、引率の先生方からも、「山奥にこんなすばらしい場所があることを初めて知った。次回もよろしくお願いしたい」との声があり、担当した職員も大いにやりがいを感じました。

当署としても、森林教室を始めとした様々なイベントを通じ、森林の大切さを広く啓発するとともに、積極的に地域に貢献していきたいと考えています。

カラマツ採種園の着果調査を実施 (環状剥皮の成果)

〔東信署・中信署・森林整備課・技術普及課〕五月二十六日東信署管内の清万採種園において、カラマツ種子の着果状況

調査を行いました。

カラマツ苗木生産は、植付箇所減少から縮小傾向にありましたが、近年のカラマツ合板や集成材への需要が高まる中で、カラマツは豊作年の周期が六〜八年と長いため種子が不足している状況にあります。

中部森林管理局では、カラマツ種子の不足を補うため平成二十六年度から種子の販売を行ってきており、昨年度は、優良種子の更なる安定的な供給に向けて、当採種園で三十年ぶりとなる採種園の整備とカラマツの着果促進に有効とされている「環状剥皮」(樹皮を一定の幅で半周ずつはぎ取り刺激を与えて花芽形成を促す方法)を行いました。



着果した種子

今回の調査は、昨年実施した「環状剥皮」箇所と未実施箇所を比較し「環状剥皮」の効果の検証も含め実施したものです。調査には、職員二十五名の他に長野県担当者、長野県林業総合センター、長野県山林種苗協同組合や関東局職員も参

加し、約五百本あるカラマツ精英樹を一本ずつ双眼鏡等により確認しながら球果を探しました。

調査の結果、環状剥皮を行った精英樹四十本は試験的に全周剥皮や剥皮幅を変えて実施したこともあり、全周と十二センチ幅剥皮などの二十本は枯れてしまいました。残りのうち十五本で着果が確認され鈴なり状の精英樹もあり環状剥皮の効果を確認しました。この他の精英樹約四百六十本中、六十二本に着果を確認しました。

昨年度は、採種園での着果がほとんど確認できなかったことから、採種園整備と環状剥皮の効果が現れた結果となりました。

また、UAV（ドローン）を活用した調査も試験的に行い、一部ではあります。が上空から着果状況の撮影を行いました。

今回の結果も踏まえ、採種園に隣接している展示林内（旧採種園）においても来年に向けた着果促進のため環状剥皮を



上空から撮影した着果木

行うなど、引き続き採種園の整備を行いカラマツ種子の安定的な供給に向けて取り組むこととしています。

地元と連携した植樹祭の開催

「南木曾支署」五月二十一日（土）、長野県木曾郡南木曾町漆畑地区において、南木曾町と当署の合同植樹祭を開催しました。この植樹祭は毎年恒例行事で、開催場所を町有林と国有林の交互に行っています。今年も、町有林での開催となり、第六十七回全国植樹祭のプレイベントとしての位置づけとなった木曾郡植樹祭（県民植樹祭）も併せて行ったことから、例年の三倍五〇〇名を超える参加者による盛大な植樹祭となりました。

式典では、南木曾小学校四年生の生徒による「みどりの宣言」や、式典会場となった木地師の里から南木曾ろくろ工芸協同組合員による「ろくろの手挽き」の実演、当署職員による植樹指導が行われ



力を込めて植穴掘り

ました。

式典後は、約一畝の植樹会場に、町花であるミツバツツジや、ろくろ細工の原木になるトチノキやケヤキなど約二〇〇〇本を植えました。当日は、曇りつ無雨の晴天に恵まれ、参加者は汗を拭いながらの作業となりました。

また、翌週の五月二十八日（土）には、長野県木曾郡大桑村ののぞきと森林公園近くの村有林において、大桑村と当署の合同植樹祭を開催しました。この植樹祭も毎年恒例行事であり、村内や愛知県北名古屋市等から約二七〇名が参加し、紅葉が楽しめるカエデなどを約二五〇本植樹しました。植樹の後、大桑小みどりの少年団と北名古屋市の西春少年少女合唱団の子供たちを対象とした森林教室では、ハンノキ等の小枝を使ったエンピツ作りを行いました。中には帰



合同植樹祭の開会式

り間際まで粘って五本も作る強者もいるなど大変好評でした。

両植樹祭とも、地元からの要望に応え、当署の全職員の協力のもと、事前準備から当日まで対応することで無事実施することができました。実施後には、町村長をはじめ関係者から当署の対応への感謝の言葉とともに、引き続きの連携協力について要請があるなど、地元の皆さんに南木曾支署の存在感を示すことができたのではないかと考えています。

当署では、今回の植樹祭の他にも、四月九日（土）の商工会主催による伝統工芸を紹介する「匠市」での木工教室や、小中学校の森林教室（犬山中・五月十日、大桑中・六月一日、南木曾小・六月一日）などに取り組んでおり、今後も地元の皆さんから南木曾支署があつて良かったと思ってもらえるよう、地元目線で精一杯取り組んでいくこととしています。



大きく育てと願いを込めて

木曾の国有林見学会 2016

(春季) を開催

「ふれセン・名古屋事務所・木曾署」

五月二十五日、木曾森林管理署管内の赤沢自然休養林で、木曾川下流域の住民を対象とした「木曾の国有林見学会 2016 春季」を開催しました。

この催しは、江戸時代から現在まで深い繋がりをもち木曾と名古屋の関係や、日本の森林・林業について理解を深めてもらうこと、併せて木曾地域復興支援を目的に、下流域の都市住民の方々に、木曾川源流の国有林を訪ねていただき、木曾地域の林業の歩み、木材輸送方法（伐採地、小谷狩り、森林鉄道、林業遺産）及び名古屋の熱田白鳥野木場にたどり着くまでの運材技術の変遷や木材の生地を、実際に見聞きしていただく学習講座で、



参加者全員で記念写真



ガイドによる「ひのき大樹」の説明

「木曾の国有林見学会」と銘打って昨年春と秋に開催しています。

今回は、名古屋市内を中心に四一名の一般参加者と、ガイド等を行う国有林職員六名の対応により実施しました。

この講座に先駆け、五月十八日に、当見学会の予備知識を深めるために「熱田白鳥の歴史館」において、歴史と木材の利用をテーマとした展示の見学や事前学習会を行いました。また、当日のバスの中では、木曾谷の今昔、伊勢神宮御神木御代祭や思い出の森林鉄道が上映され、木曾山への想いを膨らませながら木曾ヒノキの生地へと遡っていききました。

赤沢自然休養林では、やわらかな新緑の中で昼食をとった後、職員のガイドにより木曾ひのき林の中を森林鉄道終点「丸山渡停車場」から冷沢コースを散策しながら、江戸時代から歴史とともに育まれてきた樹齢約三百年余りの木曾ヒノキやサワラが生い茂る林内を散策し、木

曾の林業の歴史や運材方法、伊勢神宮との関わり、木曾五木の樹種の見分け方や特徴などを学ぶとともに、今年度から始めた、赤沢自然休養林内の遊歩道を歩いてパズルを完成させる「パズルラリー」にチャレンジしていただきました。



上を見上げて「樹高測定中」

見学会終了後のアンケートには「森のすばらしさを再認識した」「期待以上のものがあつた」「森のことをもっと知りたくなった」、また、パズルラリーについては、ほとんどの方が良かったとの感想が記された他、「我社の職員研修として計画したいが、現地案内をしていただけるか?」といった問い合わせも後日寄せられました。

また、今回も王滝復興支援の取組として、王滝村から弁当の調達とともに、チャリティーとして地元の特産品等の購

入（お土産代）を設定しました。今回はおやき、エゴマのお菓子や、エゴマとすんき漬けを使った「御岳カレー」が配られました。後日「うちの飲食店で提供したいのでまとめて仕入れたい」といった問い合わせがあり、この取り組みによる支援の輪は確実に広がっています。

ヒノキコンテナ苗植栽後の検証 現地検討会を開催

「岐阜署／森林技術・支援センター」

平成二十八年五月十二日、岐阜県下呂市金山市民会館および岐阜署管内の高天良国有林において「ヒノキコンテナ苗植栽後の検証現地検討会」を開催しました。

コンテナ苗は、通常流通している普通苗に比べて「植栽時期が長い」「植栽が容易」「活着率が良い」等、低コスト造林技術の確立のために不可欠であり、そ



生育状況検証の様子

の試験研究が全国で行われています。

高天良国有林では岐阜県森林研究所と共同でコンテナ苗試験地を設定し二年が経過したことから、これまでの研究開発の結果等について発表を行うとともに、現地において生育状況の検証を行い、その普及を図ることを目的に募集したところ、県内の地方公共団体や林業団体等約六十名の参加がありました。

はじめに、金山市民会館において民間連携して取り組んでいる研究課題について、森林技術・支援センター三村森林技術普及専門官から①「普通苗とコンテナ苗の植栽功程の違い」岐阜県森林研究所茂木主任専門研究員から②「植栽後の初期成長に優れるヒノキコンテナ苗の開発」同所渡邊専門研究員から③「植栽効率の向上と通年植栽に向けた技術開発」の発表を行いました。

午後は会場を高天良国有林の試験地に移し、成長、根鉢の発根状況の確認とコンテナ苗用に開発された様々な植栽器具



さまざまな植栽器具を手に取る参加者

の展示説明を行いました。

参加者からは「成長の早いコンテナ苗で下刈の省略ができないか」「下刈り回数が減らせられないか」「地拵の省略も可能ではないか」「植栽器具の重さの違いがよくわかった」等の感想がありました。

今後は、現在までに蓄積している実証データと継続中の成長調査データを取りまとめ、ホームページ等により情報発信するなど低コスト造林技術の開発・普及に取り組んでいくこととしています。

犬山中学校総合学習への支援 （協議会・NPOとの連携支援）

【木曾署】愛知県犬山市立犬山中学校の二年生二七名が、二泊三日の日程で木曾総合学習を実施し、当署管内の国有林には五月九日、十日の二日間訪れました。

初日は、赤沢自然休養林内において三班に分かれてオオヤマザクラ記念植樹や遊歩道の木質チップ敷設作業を行いました。一班と三班は遊歩道の木質チップの敷設作業を行い、二班は遊歩道付近にオオヤマザクラ記念植樹の後に遊歩道の木質チップ敷設作業を実施しました。実施に当たっては、「赤沢溪谷を美しくする保護管理協議会」と当署が共働で活動を支援しました。作業終了後には生徒から「くわが重く木を植えるのは大変だった、チップは柔らかくて歩きやすいので、歩く人が喜んでくれると良い」との声が聞



赤沢休養林での集会の様相

こえてきました。

二日目からは生徒は四、五名程度のグループに分かれ木曾地域内で木工体験やヒノキ笠作り、製材所などを訪問し木曾地域の伝統や文化等について学習しました。

二日目は、天候が悪くでしたが木祖村にある小木曾国有林内で枝打ち体験やニホンジカの生息を調査するために設置したセンサーカメラのデータ入替作業を行いました。

犬山中学校の木曾総合学習は、木曾川



遊歩道の木質チップ敷設作業

を縁にした上下流域の交流の一環で平成十一年から継続して実施されており、今年で十八年目になります。毎年国有林のフィールドを活用しており、当署としても、下流域の将来を担う中学生が森林・林業に理解を深めてもらう絶好の機会と捉え、地元の協議会やNPOと連携しながら木曾総合学習を今後とも支援していきたいと考えています。



オオヤマザクラの記念植樹



【中信署 上高地治山事業所】

治山技術官 宗廣 克徳

上高地治山事業所は、松本市安曇に位置し、所管する区域には、北アルプスへの玄関口もあり槍ヶ岳等三千級級の高山を有しています。

梓川上流の上高地【松本市】を始め、木曾路中山道の宿場町である奈良井宿・贄川宿【塩尻市】、北アルプスの伏流水を利用した大規模なわさび田等【安曇野市】見所が多い場所です。

当事業所は、信濃川に流入する梓川、奈良井川及び中房川等の上流域の国有林内で山腹・溪流荒廃地の復旧に向けた治山事業を計画・実行しています。

現在、発注した工事の監督業務を行っています。その殆どが継続事業箇所であり、今回初めて携わることとなった地すべり防止工事を含め全体の規模も大きいことから、指導や助言を署よりいただきながら、業務に当たっています。

岐阜県との境にある梓川筋国有林では平成二十五年より地すべり防止工事を実行しています。

当該箇所は平成二十三年九月に発生した台風被害により既存の崩壊地が拡大崩壊を起し、現在、当該箇所上部より地すべり対策として、集水井及びこれに付帯する工種の施工を進めています。昨

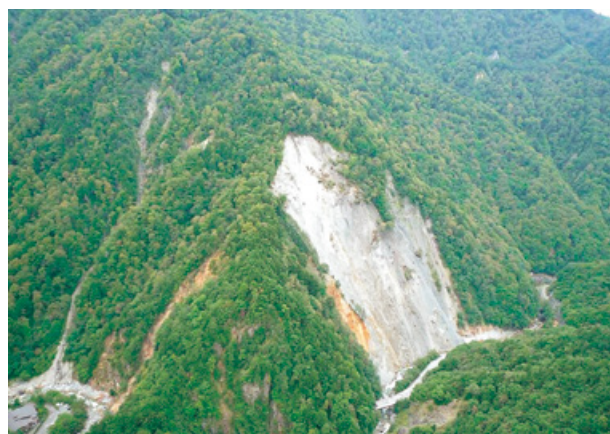


玄文沢【上高地】工事実行状況（1月中旬）



徳本峠展望台からの穂高連峰（5月中旬）

年度までに三基の集水井を設置し、当面は、計画した残りの集水井の設置、集水井内の集・排水ボーリング等の施工が主となります。さらに、毎年実施される調



坂巻【梓川筋】地すべり対策工事箇所 遠景

査での報告内容、現地に設置してある各種計測器からの数値の推移等を鑑み、掘削場所の地質形状の把握、使用する資材や工種の優先度等を検討し、今後の抑止対策等計画を進めていきたいと考えております。

さて、本年から国民の祝日として施行される「山の日」（八月十一日）記念の第一回全国大会が上高地にて行われます。これまで以上に上高地の注目度が高まっている中で、当署としてもほり旗や法被、ステッカーを使つてのPR活動に努めています。

梅雨の時期となり、急激な天候の変化や落雷等に注意を払い、無理のない判断で安全に業務を遂行していきたいと思つています。



有志等で作業中の登山道の橋架け替え【島々谷】

行事・会議等の予定

◎林野庁監査

7月4～8日 中部局・南信署・東濃署

◎「木曾悠久の森」管理運営委員会

7月12日 木曾署

◎「木曾悠久の森」植生管理専門部会

7月13日 木曾署管内

◎森林管理局治山課長会議

7月21日 林野庁

◎岐阜県・愛知県林政連絡会議

7月28日 岐阜県庁



岐阜県関市は、平成十七年の合併で、長良川を挟んだ、東側から合流する津保川周辺と、西側から合流する板取川周辺を含む区域となっています。

ここでは、西側の板取川上流西北部、板取地区を紹介します。

◆川浦(かおれ)溪谷

清流板取川は魚釣りでも有名ですが、上流にある川浦(かおれ)溪谷は、高さ三十メートル、全体約七キロメートルに及ぶ溪谷で、断崖を望む壮大な景観は四季折々の彩りを見せてくれます。



近くにはキャンプ場もあり川遊びやキャンプを楽しんだり、板取川温泉では散策等で疲れた体を癒やすこともできます。

また、秋には「せきサイクル・ツーリングin板取川」の開催が予定されており、多くのサイクリング愛好者が板取川沿いを自転車で駆け抜けます。

◆二十一世紀の森(株杉)

少し下流に下ると、四方を山に囲まれた自然あふれる公園「二十一世紀の森」の中に、「株杉の森」があります。



伐採が繰り返し行われ、この状態になったもので、百株以上の株杉があり、そのうち株の直径が一メートル以上のものが三十株あります。樹齢は大きなもので四百年から五百年と推定されており、自然の神秘が感じられる森です。

また、この公園とその周辺には十萬本のアジサイが植えられており、六月下旬から七月上旬に見頃を迎えます。この時期には「関市板取あじさい村」が開村、月末の土日は「あじさいフェスティバル」が開催され多くの観光客で賑わいます。

◆モネの池

もう少し下流には、最近テレビで紹介され一躍有名になった「モネの池」があります。

印象派を代表するフランスの画家「クロード・モネ」が描いた絵に似ていると評判になっています。週末にもなれば一千人もの来訪者があります。



◆治山工事

この地域の最上流部は、地形が急峻で、伊勢湾台風や平成十四年の台風による記録的な豪雨により、大規模な山腹崩壊が発生・拡大するとともに、土砂流出、濁水が発生し、下流に甚大な被害がありました。

平成十六年からは、県や地元からの要請を受けて、災害に強い森林の再生を目指して、山腹崩壊地の復旧や溪床の土砂を安定させるための民有林直轄治山事業を実施しています。



アクセス方法

東海環状道関広見ICから北へ、R418・R256を経て、関市板取事務所まで、34・3キロメートル約60分